NEWS 2022-2023

ふくしま青年海外協力隊の会

当会が主催/協力/参加した数々の事業イベントを振り返ります

～震災から 12 年～
「つながり」と「思い」を持って未来を切り開いていきましょう

1. 会長挨拶　高橋　司（メキシコ　H17－2　青少年活動）

帰国から早 15 年が経ちました。勢いだけの若者が、いつのまにか 3 児のおっちゃんになり、FOCA の会長を務めさせていただくことになりました。この 15 年、相双のメンバーがほぼいないため、毎回なんらかの担当をさせていただきながら、FOCA の流れに身を任せてきましたが、活動報告、国際理解講座、様々なイベントや会合、OV 会活動を通して、沢山の人との出会いがあり、学ばせていただくことも多く、OV の方々とのつながりは、私自身の大きな財産になりました。

未曾有の震災、世界規模の感染症の蔓延と、私たちを取り巻く環境は、大きく変化しようとしています。その中で、残るもの。それは「つながり」と「思い」にほかなりません。私は、OV 会に属し活動をしている方々は、任期中に素敵な活動、あるいは心残りな活動、どちらでもいいですが何らかの心を動かす活動をしてきた方々だと思っております。そして、任国や協力隊活動につながりを持ちたい、日本や福島を元気にしたい、後輩たちを応援したい等、何らかのつながりを絶やしたくないとの思いをもって、OV 会に属して下さっているのだと感じております。

FOCA も大きな岐路にたたされております。会長就任時に、FOCA をより持続可能な組織にかえていきたいと豪語したものの、まだまだ模索の最中にいます。FOCA は全国の中でもかなり精力的にイベントをこなしている団体です。それは先輩方が沢山種をまき、コミュニティーづくり、人育てをして、継続的に FOCA を育ててきて下さったおかげです。しかし、その分、育った分の維持をするだけでも大変な状態になってきました。少子高齢化の影響がこんなところにも来ているのです。若手（新たな入会者）が圧倒的に足りていません。少しずつ、少しずつ、協力隊の歴史と共に幅広くなる年齢層に対応しつつ、世代交代や事業の見直し、会員のあり方などを模索し、どの時代にあっても持続可能な組織へと変革が迫られていると感じております。

「つながり」と「思い」を持っている FOCA 会員の皆様で切り開いていく未来、みんなで楽しみにしていきましょう。

Contents

1．会長挨拶
2．協力隊まつり 2022
3．からふるカフェ
4．地球体験キャラバン
5．協力隊ナビ
6．東北ブロック会議、研修会
　ふくしま応援ツアー
7．各地域国際交流事業
8．JICA エッセイコンテスト審査会
9．うつくしま国際協力大使

Homepage
http//foca.jocv.net
Facebook
www.facebook.com/.fukushimaJOCV
Instagram
https://www.instagram.com/fukushima_jocv/

Homepage　Facebook　Instagram

2. 協力隊まつり 2022

実施日：2022 年 4 月 23 日、24 日
方　法：オンライン
担当者：水谷　恭ニ　（マラウイ　S56－1　森林経営）

昨年オンラインで実施された「協力隊まつり」に初めて出展し、2 日間の出展時間をほぼ使って多彩な番組を企画、配信し、のべ計 141 人の方に来室・視聴いただいた。本年も、大震災以降全国からいただいた支援への御礼と福島の現況報告、そして当会の広報のため、以下の 3 プログラムを配信し、のべ 41 人に来室、視聴いただきました。

オンライン開催の様子

○「JICA 二本松訓練所は今」
23 日(土)12 時から 14 時
田中所長によるご説明に続き、事前収録した動画を放映し、参加者からの質問に答えつつコロナ禍での訓練の様子を説明しました。

○「今、任国は」　（福島出身派遣中隊員による現況報告）
23 日(土)15 時から 18 時
派遣中隊員 5 名と調整員 1 名に近況報告をしていただきました。
ケニア　木村勇太さん　会津若松　コミュニティ開発
マラウイ　新田唯奈さん　郡山　理学療法士
ルワンダ　前田尋貴さん　喜多方　コミュニティ開発
パラオ　　小林かおるさん　会津坂下　理学療法士
ベトナム　浅田美乃里さん　郡山　幼児教育
トンガ　　水野茂博さん

参加者へのプレゼント画像

○「福島は今」　（大震災以来の全国の応援団のみなさんへ現況を発信）
24 日(日)15 時から 16 時 30 分
県内各地の 6 人に震災当時の様子と 11 年後の今をお話いただきました。
相馬：高橋さん、南相馬：星さん、双葉・いわき：川崎さん
福島：幕田さん、郡山：中山さん、会津若松：小熊さん

3. からふるカフェ

主催：ふくしま青年海外協力隊の会
共催：EIWAN　福島移住女性支援ネットワーク
実施場所：みなふく食堂（福島市、福島県青少年会館内）
担当者：後藤　祥与、宍戸　なつみ、水谷　恭ニ

福島市国際交流協会　「多文化共生推進団体助成事業」
目的：異文化に触れ、味わい、知り、学ぶことによって、参加者が異文化体験・多文化共生体験をし、積極的に関わり、担うきっかけとする。

コロナ禍で急遽日程を変更したりしましたが、みなふく食堂にて計 4 回実施し、総計 40 名の方々にご参加いただきました。最終回のミクロネシア編を少し詳しく記載します。2023 年度は計 5 回実施予定です。
講師のみなさん、みなふく食堂さん、チラシ作りの有銘さんありがとうございました。
第 1 回 2022 年 7 月 3 日　ネパール　小杉　誠さん
第 2 回 2022 年 10 月 23 日　マラウイ　新関　郁子さん、中村　岳さん
第 3 回 2022 年 11 月 27 日　コスタリカ　前田　英男さん
第 4 回 2023 年 1 月 29 日　ミクロネシア　松井　智宏さん

ミクロネシア編

松井 OV によるミクロネシア紹介の様子

講師の松井さん（H23-2、小学校教諭）はクイズを交えて、ミクロネシアや任地コスラエを紹介。ホームステイでローカルフードにはまって快適だった生活や人々の仕事ぶり、学校の様子を説明され、たくさんの質問に笑顔で答えられました。

その後、日曜日に食べるコスラエスープを試食。安息日たる日曜日には調理せず、土曜のうちに準備しておくそうです。ココナツミルクに塩・こしょうのみの味付けでした。

（参加者の感想）

・前回のコスタリカ同様、普段知る機会の少ないお国の話が聞けて良かった。

・来年度も開催ありましたら参加したいです。

・とても興味深いお話でした。スープもやさしい味でした。来年度も楽しみにしています。

・仕事よりも家族を優先する社会があり、みながそれを認めている国があることが驚きです。

4. 地球体験キャラバン

福島県との共催事業

開発途上国において国際協力経験のある青年海外協力隊経験者や、外国人と一緒にゲームやクイズなどを楽しみながら異文化体験学習を行う「地球体験キャラバン」を実施している。

ねらい：「国際化=英語教育」「外国人=英語圏の人たち」というイメージでとらえがちですが、この地球体験キャラバンではそのイメージからの脱却を図り、「世界には様々な言語、伝統・文化がある。」ということを子どもたちに理解してもらうこと

（参考：福島県国際課　https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16005e/caravan-outline.html）

参加者との集合写真

（1）国見町（国見町観月台文化センター）

実施日：2022 年 10 月 15 日

担当者：鈴木　光飛斗　（モザンビーク　H27-2 体育）

小学校中学年～高学年の子ども達約 20 名を対象に、開催しました。ザンビア幕田 OV とエルサルバドル布田 OV、そして国際交流員 2 名に加え、大学生、地域おこし協力隊の方々にもご協力いただき、自己紹介ゲーム、SDGs すごろく、中国・カナダクイズ、モザンビークのコンセンサスゲームを行いました。非常に元気な子ども達と、スタッフ一同、声が枯れるまで遊んだキャラバンとなりました。

参加者との集合写真

（2）二本松市（東和文化センター）

実施日：2022 年 12 月 10 日

担当者：中村　岳（マラウイ　2015－1　青少年活動）

小学生 6 名を対象に国際交流員のジョアンさん、李さんとともにカナダ、中国、マラウイ、モザンビークの文化紹介と文化体験やクイズをしました。

体験ではモザンビークの楽器を鳴らしてみたり、中国の書道を体験したり、カナダのプラスチックでできたカラフルな紙幣を触ってみたりと興味津々でした。

（3）福島市（吾妻学習センター）

実施日：2023 年 2 月 14 日

担当者：鈴木　光飛斗　（モザンビーク　H27－2 体育）

小学校高学年 13 名と、県の国際課からカナダのジョアンさん、ニュージーランドのブラッドさん、パラオ中山 OV、モンゴル大槻 OV が参加。前半はワールドクイズで 4 か国のブースを順々にまわり、後半はジェンベ、カホン、アフリカンダンスの体験を楽しんだ。

大槻 OV と参加者

5. 協力隊ナビ

JICA 海外協力隊について興味がある人が情報を収集したり意見交換したりする場で、隊員経験者と語る

実施日/場所

（1）2022 年 8 月 28 日　結・ゆい・フェスタ（福島駅東口広場）

（2）2022 年 10 月 9 日　国際交流フェスティバル（会津若松市鶴ヶ城体育館）

（3）2022 年 10 月 9 日　子供の祭典（須賀川市民交流センター　tette）

（4）2022 年 10 月 23 日　福島市　みなふく食堂

（5）2022 年 11 月 20 日　いわき産業創業館　LATOV

（6）2023 年 2 月 18 日　　青年海外協力隊の日　in 三春（三春町　まほら）

結・ゆい・フェスタ（福島市）

子供の祭典（須賀川市）

みなふく食堂（福島市）

以下の詳細は（5）いわきの様子

参加者は非常に少なく、残念ではありましたが、青年海外協力隊体験談やＪＩＣＡ協力隊事業の説明などを行い、参加いただいた方からも熱心な質問があり、協力隊事業に大変関心を持っていただきました。午後 1 時から開始し、終了予定時間の 4 時まで時間いっぱい、参加者との質疑応答や説明が行われ、充実した会となりました。

体験談では、平成 26 年度 1 次隊「青少年活動」隊員として、ケニアで活動した佐藤潤一ＯＶから協力隊活動での体験について話をしてもらいました。佐藤さんからは参加の動機や活動内容、ケニアでの生活、活動で苦労したこと、そして活動を通して学んだことや活動の成果などについて報告してもらいました。その後、JICA 二本松職員の井上さんからも、協力隊の応募方法、派遣前訓練や語学研修、発展途上国の治安事情や感染症対策など、協力隊事業全般について説明していただきました。

鈴木　洋二（ケニア　1980-3　野菜）

佐藤 OV によるケニアの紹介

6.ふくしま応援ツアー、JOCA 東北ブロック会議、FOCA 研修会

日時：2022 年 12 月 17 日、18 日
報告者：水谷　恭二　（マラウイ　S56－1　森林経営）
実施場所：相馬市松川浦温泉「飛天」

JOCA 東北ブロック会議

○JOCA 東北ブロック会議
来賓に JICA 東北センター小林所長を迎え、JOCA 東北メンバーである北海道から福島計 7 人の各県 OV 会長（含代理）らが参集し実施。
活動報告、計画、抱負が語られ、協力隊事業、参加者増への取り組みに励むと全会一致

○ふくしま応援ツアー＋FOCA 研修会
はるばる沖縄から、4 月赴任予定の方（OV 未満）、応援ツアー2、3 回の方々まで、子供を含むご家族連れ計 10 名にご参加いただきました。土曜日午後、研修会参加者とあわせ 21 名が観光協会の「復興視察」を利用し、相馬市内へ出かけました。ベテランガイドさんの説明で津波被災後、居住不可となり今はソーラーパネルが並ぶ磯部地区（死者数最多だった地域）から、一見被災したとは気づかない港湾施設までを見学し、震災時やその直後の様子をご説明いただき、伝承鎮魂祈念館では「語り部」さんの生々しい体験談に、一同感想も言えない絶句状態となりました。
「飛天」に戻り、参加者合同プログラム（Foca 研修会）として「帰国後の社会還元、復興支援」の時間、平出さんの司会進行により各県から事例紹介、意見交換。福島は南相馬在住の星さんが 11 年 9 か月を振り返る内容でご発表。北海道は、チリでの活動中に地震を経験した小山さんが胆振東部地震での体験から「復興に必要なもの」と考察をご発表され、「マッピングボランティア」をご紹介。宮城、岩手の方々はそれぞれ震災時の活動を、青森からは、2011 年 12 月会津若松から子供たちをスキーに招待した活動が報告されました。
18 日、日曜日
「応援ツアー」として、FOCA スタッフ含め、計 37 名がバス 2 台、乗用車 3 台で移動開始。最初は高橋会長体験談を「原釜幼稚園」で聴講。たくさんの写真を見せつつ、11 年余の流れと今後の抱負、夢を熱く語られました。ここまでの方々と分かれ、計 4 台は浪江町へ。福島県唯一の震災遺構「請戸小学校」を見学。次の伝承館の受付時間に間に合うよう、速足となったのが少し残念でしたが、「1，2 階で天国と地獄を目の当たりにした」とのご感想。続いて、2020 年 9 月開所の「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学し、隣接する双葉町産業交流センターで「浪江やきそば」弁当で昼食となりました。センター屋上からは 360 度の眺望が楽しめますが、伝承館でじっくり見学された方々には時間不足だったようです。

震災機構　浪江町立請戸小学校

双葉駅西側

原釜幼稚園訪問の様子

（前頁つづき）
最後に、双葉駅へ移動し、駅の東西を見学しました。ここでは、本年４月から双葉町役場に勤める本田さん（ガーナ　H14-1　村落開発）により、遠く埼玉へ全町避難し、今年８月に帰還可能となるまでの動きと現状を説明いただいた後、駅西側の地震被災のままの建物と駅東側の工事中の街並みを見学。新築・入居済の災害公営、再生賃貸住宅と整備、建築中の同住宅、共用施設等は別世界でした。JR や車で帰る方々と別れ、計３台は高速道で相馬へ。IC へ向かう道、山に近づいたら、それまでの青空から吹雪と一変しました。帰路のバス車内では、感想発表、まとめの時間。
１号車では、渡邊恭子さんのファシリテーションにより、おひとりずつお話いただきました。「震災後、初めての訪問。来ないとわからない」「TV 画面越しでなく、実際に見れた」「次回は子供を連れてきたい」「頑張っておられる高橋さんのお話に感謝」「ご家族づれの参加者で子供たちの声に未来を感じて嬉しかった」などのご感想や、周知期間を長くすれば参加者は増えるはずとのご意見をいただきました。
雪が止んだ相馬に戻り、駅、そしてホテルで「おわかれ」し、三本立は無事終了しました。

7. 各地域国際交流事業

結・ゆい・フェスタ 2022

実施日：2022 年８月 29 日
実施場所：福島市福島東口駅前広場　まちなか広場
担当者：松井　智宏　（ミクロネシア　H23－2　小学校教諭）

FOCA ブースでの参加 OV の記念撮影

まちなか広場の FOCA ブースでは「かき氷」を販売しました。海外経験がある FOCA らしさを出すべく事前に任国のかき氷について情報提供を求め、マレーシアのカチャン、ベトナムのチェーを参考にシロップかき氷の上にトッピングを追加する形とし、ココナツミルク、コーン、小豆、練乳を用意しました。朝から冷たい雨だったのが午後１時頃に晴れてきて、それから売れ行きも伸びて、計 70 杯ほどを販売。他方、駅前広場では、JICA ブースの片隅を借りて、「ナビ」を開催しました。
昨年に続き、退避隊員らによる手作りポスターを掲示し、作者の１人荒川モンゴル OV が説明役。多くの方が興味深そうに立ち止まっておられました。よろず相談には計５名ほど、来春就職予定の学生さんには、協力隊の魅力、隊員の様子等をご説明しました。

国際交流フェスティバル

実施日：2022 年 10 月８日
実施場所：鶴ヶ城体育館
担当者：高橋　義人（モンゴル　H27-2　バスケットボール）

参加 OV の集合写真

会津若松市国際交流協会主催の国際交流フェスティバルに出展しました。４年ぶり第 20 回目のフェスティバル、来場者は計 2,000 人。Foca ブースではホンジュラスの民芸品、マレーシアの衣装、コロナ禍退避隊員らによる手作り「福島っ子」のポスターを掲示し、多くの方々に、民芸品の紹介、衣装を着ての撮影、そしてそれぞれの任国の紹介もしました。来場された方は、青いベストの我々に、「へぇーみなさん行かれてたの!?」マレーシアの衣装を着つつ、イスラムの説明に「ふむふむ」「福島っ子ポスター」の作者の１人、ブラジル派遣の大西諒さんのお母様がおいでになり、ポスターの写真を撮っておられました。参加した OV は、鈴木さん、中田さん、笹川さん、木鋤さん、高橋さん、荒川さん、水谷（文責）でした。

第 46 回子どもの祭典

参加 OV の集合写真

実施日：2022 年 10 月 9 日
実施場所：須賀川市民交流センター　tette
担当者：中山　澄子（パラオ　H12-1 小学校教諭）

子供達に体験型で世界旅行を楽しんでもらうため、「調べよう!」では、世界地図で国探し、アプリを使ってアースボールで国調べ、「着てみよう!」では、民族衣装を着て撮影会、「やってみよう!」では、ココナツポックリとバンブーダンスに挑戦、OV と JICA の井上さん、野並さん、総勢 13 名で準備・運営しました。感染症対策で会場・時間・入場者数等制限の下、約 70 名の参加者の笑顔に包まれる楽しい 2 時間となりました。

青年海外協力隊の日 in 三春

OV の話を熱心に聞き入る来場者の様子

実施日：2023 年 2 月 18 日
場所：三春町　まほら
担当者：平出 将孝(東ティモール　2017－2　手工芸)

10 時から 14 時までのブース出展でした。内容はクイズで任国や活動の紹介です。参加 OV が持参したお気に入りの任国グッズや万国旗で、賑やかなブースとなりました。参加 OV の声掛けで来場いただいた方、国際交流に興味ある高校生などにお立ち寄りいただきました。海外に興味がある方が多く、熱心にお話を聞いていただきました。支援する会や三春町国際交流協会の皆様の協力によりクロスロードの上映会、報告会と内容盛り沢山、タイトル通りの青年海外協力隊の日でした。(展示ブースには合計 60 名、クロスロードの上映会と報告会には 40 名の参加と伺っております。)

2023　わくわくワールドフェスタ相馬

高橋会長　あいさつ

FOCA ブース

実施日：2023 年 2 月 26 日
実施場所：相馬市　総合福祉センター（はまなす館）
担当者：内田　恭男（タンザニア　H2-2　造園）

高橋会長と青木さんファミリー、いわきから鈴木さん、二本松から小杉さん、岩沼から内田、JICA から推進員の松山さんと室井さん、そして相馬高校の生徒さん 3 人がボランティアで加わり、ネパールカレーと元気の出るジンジャースープを販売し、横では JICA 海外協力隊の応募相談を実施いたしました。ウクライナやドイツ、中国、フィリピン、ベトナム、ルワンダなどなど 30 を超える出展があり、手話や歌ありダンスありで大盛況でした。全体では 900 人を超える来訪者がございました。このうち 200 名ほどが FOCA ブースを訪ねて下さり、任国での体験や JICA 海外協力隊に参加するためにはどうしたら良いのか？など熱心に質問されていました。福島県国際交流協会の荒秀一会長、金子恵美衆議院議員などもブースにお越し頂き、青年海外協力隊 OB 会の活動について激励を頂きました。

8.JICA 中学生エッセイコンテスト　審査会

実施日：2022 年 10 月８日

実施場所：西郷村　追原コミュニティセンター

担当者：佐藤　千賀子　（パラグアイ　H14-1 村落開発普及員）

審査会の様子

初の西郷村開催に県内各地から 10 名の OV に協力して頂き 322 作品を 1 次審査しました。これは昨年度の半数以下で全国的に応募作品の減少がみられたようです。内容は、昨今の社会情勢からコロナやウクライナ問題、また SDGs などが多くみられました。その中でも、個人のエピソードを結びつけて書かれた作品には審査員の高い評価がつき、2 次審査へ 2 作品を送り出すことができました。また今回、白河在住の重鎮、倉又節 OV は体調が万全ではない中、顔を出して下さり、協力隊を懐かしみ、和やかな時を過ごすことができました。その後、10 月 15 日に急逝されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

9.「うつくしま国際協力大使」福島県出身　派遣中の隊員

福島から世界に羽ばたき、頑張っている派遣中の隊員がたくさんいます。県より「うつくしま国際協力大使」が委嘱されており、世界の人々と友好の懸け橋として活動されています。詳細は、福島県のウェブサイトをご参照ください。

https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16005e/wwt-index.html

派遣中の隊員からの近況報告

2022-1　森谷理央 隊員(ウズベキスタン、ラグビー)

同僚の隊員の活動先である、中学校の英語クラスで、自身のラグビーストーリーを紹介した後、福島の観光、特産物、震災をメインにプレゼンをさせて頂きました。

想像以上に生徒さんたちが熱心に聴いて下さったので、非常に驚きましたし、良い経験ができました。折角の機会なので色々なことに挑戦していきたいと考えております。

プレゼンする森谷隊員（最右）

2022-1　熊田淳 隊員(ブータン、きのこ栽培)

ブータンでの６ヶ月の活動も順調に進んでおります。入国早々に、日本のナメコに酷似した子実体を採取し、現在、福島大学との共同研究を行っております。今年中には、結果を取りまとめて学会誌に投稿する予定です。生活の方も順調で、国民性、気候、食事、全てが快適ですっかり馴染んでおります。今後も心身の健康に留意し、任国への貢献を目指すとともに、折に触れて郡山市を PR していきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

熊田隊員ときのこ

発行 ふくしま青年海外協力隊の会
発行日 2023 年 4 月 18 日